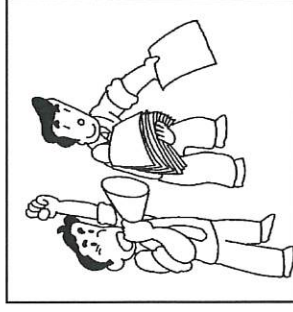


# 全国 検査数労働連

727号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港  
 福会館 5階  
 Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622  
 メール roren@kensu.jp  
 ホームページ http://www.kensu.jp/  
 全国検査数労働組合連合  
 書記局



## 23春闘要求前進に向け、中央・地域での運動が活性化！ 学習・連携の強化で物価高騰に負けないう幅賃上げを目指そう！

山田副委員長からは企業内課題に対する取り組みについて話されました。  
 65歳定年制協議では、昨年12月から労使協議が開始され、組合からは65歳定年制と同時に『退職金制度の見直し』『賞金減額なしの定年延長』『職員Bの地域年齢手当の見直し』と家族手当の新設などを並行して協議して行くことを求めているとい

山田副委員長からは企業内課題に対する取り組みについて話されました。  
 65歳定年制協議では、昨年12月から労使協議が開始され、組合からは65歳定年制と同時に『退職金制度の見直し』『賞金減額なしの定年延長』『職員Bの地域年齢手当の見直し』と家族手当の新設などを並行して協議して行くことを求めているとい

光部書記長からは『23春闘に向けた心構え』として、要求前進に向けて、厳しい状況だからこそ、港湾産別人の結集が重要視される。港湾産別に結集して旺盛にたたかおう。組合活動の原点は『職場の声』にある。職場の声に耳を傾けながら組合員をいかにサポートして行くかが重要になる。検査数労働として地域との連携をはかりながら23春闘をたたかい抜くので、是非とも中央に力を貸してほしいとの話がされました。

2月16日に第一回検査数労働23春闘交渉で要求書を提出してから今日まで3回の交渉を積み重ね、両協会に対し組合要求に沿った回答を求めました。一方、各地域労働ではこの間、23春闘オルグの開催や地域での独自行動など積極的な動きが重なり、要求の前進に向けて着々と運動を進めていることから、今号では中央・各地域の23春闘での要求前進に向けた行動を紹介していきたいと思っております。



《苫小牧港コンテナターミナル》

2月20日・21日の2日間で北海道検査数労働23春闘オルグが開催され、中央から石橋副委員長・石渡書記次長・高木中執の3名が参加しました。



《全日検九州23春闘オルグ》

った連携状況等が話されました。

### 【全日検九州】

全日検九州支部労組では2月3日に拡大評議委員会と併せて検査数労働23春闘オルグを開催し、中央から山田副委員長と光部書記長が来られました。

石橋副委員長からは、組織強化・拡大について話されました。  
 検査数労働では組合幹部の

高木中執からは、全国港湾での産別要求課題を中心に時間外基礎分母(2025年140時間到達)や65歳定年制実施に向けた労使協議、放射線測定業務従事者の健康診断実施に向けた協議や港湾労働法の全港全職種適用など、港湾産別要求でもとりわけ検査数に関係する要求について、詳しく説明がされました。

石渡書記次長からは23春闘での世間的な情勢と第一回交渉での要求提出以降、有額回答から妥結までの間、組合要求を勝ち取るためには労連中央と地域労働との間で連携した動きが大切であること。職場の意見や、物価・高熱費の高騰による切実な生活実態などを両協会に主張していくので是非聞かせてほしいとの話がされました。

検査数労働オルグでは検査数労働春闘・港湾産別春闘・組織強化拡大というテーマでの話をしました。  
 石渡書記次長からは23春闘での世間的な情勢と第一回交渉での要求提出以降、有額回答から妥結までの間、組合要求を勝ち取るためには労連中央と地域労働との間で連携した動きが大切であること。職場の意見や、物価・高熱費の高騰による切実な生活実態などを両協会に主張していくので是非聞かせてほしいとの話がされました。

20日には日検・全検それぞれの企業内課題、21日の日中は北海道労働石原委員長の内のもと、苫小牧港のコンテナターミナルと非指定港である石狩湾新港、小樽港の視察などを行い、夕方から北海道検査数労働23春闘オルグを開催しました。

参加者からは、未組織労働者は何故、組合に入らないのか。また、組合員と非組合員との間で、賞金面や一時金面での差などつけてしかるべきであり、実際にそのようなことができるのか。という質問や、やはり物価や高熱費の高騰による厳しい生活実態など、職場の生の声がたくさん出され、翌日に開催された第二回検査数労働23春闘交渉で、両協会に対し、地域組合員からの切実な声として主張し、組合要求に沿った回答構築をするよう強く求められました。



《北海道検査数労働23春闘オルグ》

世代交代が進む中で、関係諸団体等による学習会などへの積極的な参加が組織の強化に繋がること。また、女性や若手組合の声にしっかりと耳を傾けるなど、職場要求を積極的に反映させることは重要であること。組織の拡大については、日常活動の『見える化』とのわけ職場からの相談窓口になる動きが大切であることなどが話されました。



### 【国民春闘共闘中央行動】

3月2日、国民春闘共闘・全労連共催による23春闘中央行動が開催され、検査数労働中執6名、日検労働石原中執、検査数労働神戸支部奥島執行委員、日検九州田川書記長が参加しました。

日比谷野音での決起集会で全労連小畑議長は8日の統一回答日に向け、国民春闘は正念場だ。賃上げの世論をひねりつと訴えました。行動提起では全労連黒沢事務局長が『労使対等な交渉の場で要求を突き付けよう。ストライキを構え、回答を引き出す実践へ踏み出そう』と呼びかけました。

決起集会終了後、国会前までデモ行進を行い、10%以上の賃上げで物価高騰から生活を守ることや、最低賃金全国一律1500円以上、インボイス制度中止や消費税減税などを広く世間に訴えかけました。